

2006.03.06

斐伊川流域の水辺を考える懇談会 Vol. 4

自然

現地踏査①

【内容】これまでの資料を基に宍道湖・大橋川の特徴を整理した上で、「自然」を視点に行った現地踏査結果を整理した。

【概要】それぞれの場所の特徴から、移動しながら自然を感じる場所を「自然を眺めながら移動する場所」、安心して水辺に入って楽しめるように整備された場所を「湖岸で豊かな自然と触れあう場所」、留まって自然を感じることができる場所を「湖岸から景色を眺め自然を感じる場所」に分類した結果、東岸は「湖岸から景色を眺め自然を感じる場所」、南岸や北岸は主に「自然を眺めながら移動する場所」で、所々に「湖岸で豊かな自然と触れあう場所」が存在している。西岸は、「湖岸で豊かな自然と触れあう場所」。大橋川沿いも主に「自然を眺めながら移動する場所」となっている。



湖岸沿いを走る道路の所々にみられるヨシ植生や湖面に浮かぶ野鳥など、自然を眺めながら移動する区間



背後の農地を餌場として白鳥が飛来する道路からは、湖岸に浮かぶ水鳥や、餌場となる農地で群をなす鳥の姿を楽しみながら移動する区間



ヨシ植生や砂浜など、自然を再生した水辺と親しむことができる



南岸の所々で、湖岸沿いを走る道路からヨシ植生や湖面に浮かぶ野鳥など、自然を眺めながら移動することができる



ティファニー美術館と一体的に整備された、湖岸の親水空間からは景色を眺め自然を感じることができる



ヨシ植生やまとまった農地など、中州は自然を感じることが出来る空間道路が狭く、通過のみの利用



親水空間として整備された宍道湖グリーンパークやなぎさ公園等では、水辺に近づき砂浜やヨシ植生などの自然と触れあうことができる。葦川平野を餌場とした野鳥を観察するなど、豊かな自然と触れあえる



自然のなごさが残る玉湯川河口の西側散歩や風景を楽しみながら自然を感じる空間



末次公園、白湯公園、県立美術館前、夕日スポットと連続する水辺空間では、散歩や憩いの空間として、自然を感じることができる



背後の山林や農地等、自然を眺めることができる道路が狭い為、通過のみの利用

凡例

自然を眺めながら移動する場所	オレンジ色
湖岸で豊かな自然と触れあう場所	緑色
湖岸から景色を眺め自然を感じる場所	ピンク色

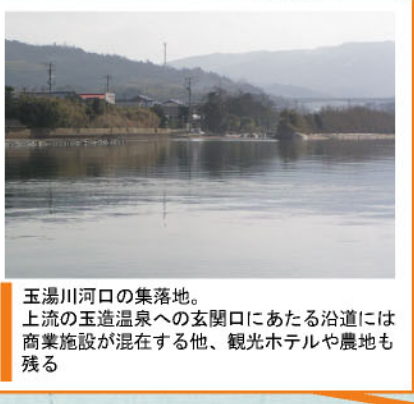
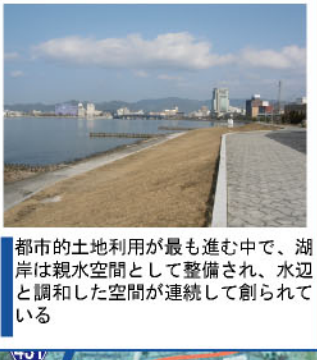
2006.03.06

斐伊川流域の水辺を考える懇談会 Vol. 4

湖岸・河岸沿いの土地利用

【内容】これまでの資料を基に宍道湖・大橋川の特徴を整理した上で、道路と湖岸・河岸との間に限定し、「現況土地利用」を視点に行った現地踏査結果を整理した。

【概要】湖岸・河岸と道路の間にある空間を「山林」「農地」「市街地」「集落」「商業・住居の混在集落」「工場・事業所集積地」別に分類した結果、東岸から北岸にかけてと西岸は親水空間としての整備がされている。南岸は、商業・住居混在の集落地や、集落が多く、工業・業務集積地も一部に存在する。北岸は、湖岸と道路の間に空間が少なくそのほとんどが集落となっている。大橋川の上流では、河岸沿いに道路が走り、中流、下流では農地や集落がみられる。



凡例

山林	■
農地	■
市街地	■
集落 (主に集落)	■
集落 (商業施設と住宅の混在)	■
工場・事業所集積地	■
水辺利用 (親水空間)	■

【内容】これまでの資料を基に宍道湖・大橋川の特徴整理を行った上で、道路より背後地について、「現況土地利用」を視点に行った現地踏査結果を整理した。

【概要】それぞれの場所の特徴から、道路より背後地を「市街地」「集落」「商業・住居の混在集落」「農地」「山林」「工場・事業所集積地」別に分類した結果、東岸の殆どが市街地、西岸は主に農地となっている。南岸は、山地と谷間の農地が一部に見られるが、平野部では「集落」や「商業・住居の混在集落」が多い。北岸は、山地が多く、谷間には「集落」、長江や浜佐陀ではまとまった「農地」も存在する。大橋川は、上流は「市街地」、中流は主に「農地」、下流は「農地」「山林」と「集落」がみられる。

凡例	山林	茶色
	農地	緑
	市街地	赤
	集落 (主に集落)	黄
	集落 (商業施設と住宅の混在)	オレンジ
	工場・事業所集積地	紫
	水辺利用 (親水空間)	青



【集落】水際を走る道路と背後の集落



【山林】湖岸道路の近くまで山が迫る



【農地】広大な簸川平野が背後に広がる



【山林】背後に広がる山林



【松江市街地】親水護岸と背後の市街地



【集落】宍道支所付近の集落地



【集落】道路の背後に広がる集落



【山林】山林・道路・鉄道

2006.03.06

斐伊川流域の水辺を考える懇談会 Vol. 4

背後地の土地利用2/2

【内容】 こまでの資料を基に宍道湖・大橋川の特徴整理を行った上で、道路より背後地について、「現況土地利用」を視点に行った現地踏査結果を整理した。

【概要】 それぞれの場所の特徴から、道路より背後地を「市街地」「集落」「商業・住居の混在集落」「農地」「山林」「工場・事業所集積地」別に分類した結果、東岸の殆どが市街地、西岸は主に農地となっている。南岸は、山地と谷間の農地が一部に見られるが、平野部では「集落」や「商業・住居の混在集落」が多い。北岸は、山地が多く、谷間には「集落」、長江や浜佐陀ではまとまった「農地」も存在する。大橋川は、上流は「市街地」、中流は主に「農地」、下流は「農地」「山林」と「集落」がみられる。



現地踏査③  
1  
2

湖岸・河岸からの景観

【内容】これまでの資料を基に宍道湖・大橋川の特徴を整理した上で、「湖岸・河岸からの景観」を視点に行った現地踏査結果を整理した。

【概要】

湖岸・河岸を、人の利用を想定した整備がされた水辺景観を楽しむことができる所を「立ち寄りやすく、湖岸が整備された景観エリア」、人の利用を想定した整備はされていないが立ち止まって水辺景観を楽しむことができる所を「湖岸が未整備の景観スポット」、移動しながら水辺景観を楽しむ所を「眺めながら通過する景観エリア」に分類した結果、宍道湖の東岸と西岸は「立ち寄りやすく、湖岸が整備された景観エリア」が多く、北岸や南岸では「移動」の中に「立ち寄りやすく、湖岸が整備された景観エリア」「湖岸が未整備の景観スポット」が点在している。

